



第56回応用物理学関係連合講演会 (2009年)

講演会企画運営委員長 鈴木 実*

第56回(2009年春季)応用物理学関係連合講演会が、2009年3月30日(月)から4月2日(木)までの4日間、筑波大学(茨城県つくば市)で開催されました。筑波研究学園都市で応用物理学会の講演会が開催されたのは、55年前に春季講演会が開催されて以来初めてのことで、茨城県でも初めてのことで、今回筑波大学で開催することができたのは、筑波エクスプレスが開通して時間的につくば市が東京から大幅に近くなったという事情があります。初めて筑波大学を訪れた参加者は、中央に池と石の庭を配した奇麗で広いキャンパスに驚いたことではないかと思いません。

会期中は3日目と4日目の朝方少し雨に降られたことを除けば、比較的良好な天気恵まれました。ただし、南下した寒気団のために寒い日が続き気温が上がらず講演会場で寒さに耐えた参加者も多かったと聞きました。寒い思いをされた参加者にはお詫び申し上げます。このような天候と、経済情勢の厳しさ、東京から通われた場合のご苦労、年度をまたがる会期など厳しい状況の中にもかかわらず、7,752名の方々に参加登録をいただき盛況のうちに春季講演会を終えることができました。

本講演会は、筑波大学ならびに産業技術総合研究所と物質・材料研究機構の先生方を中心に現地実行委員会が組織され、開催に向けて献身的に準備を進めていただきました。現地実行委員長の秋本克洋先生、副委員長の青木貞雄先生、谷田員豊彦先生、井上悟先生、一村信吾先生をはじめ、現地実行委員会の諸先生方のご尽力に厚く感謝申し上げます。また本講演会は筑波大学との共催であり、大学側の理解あるご支援とご配慮のもとに、整ったさまざまな施設を使わせていただくことができました。現地実行委員会顧問として全体運営にご配慮いただきました岩崎洋一筑波大学学長、吉川弘之産業技術総合研究所理事長、岸輝男物質・材料研究機構理事長をはじめとする関係の方々のご多大なご尽力に対しまして、この場を借りてお礼申し上げます。

今回の講演会でも、分科会・研究会企画のシンポジウムが過去最高の39テーマについて開催されました。このような企画は会員にとっても大変興味深く有意義と考えられるため、今後とも充実したシンポジウムを企画できるよう努力したいと考えています。

今回の講演会では、一般講演3,676件、39件のシンポジウム発表など779件(一般講演のもち時間15分で換算)を合わせて4,455件の講演申し込みがあり、46の口頭講演会

場、第1体育館でのポスター会場で活発な討論が行われました。とりわけ、以下の魅力的な特別企画が多くの参加者の興味をひきました。

①特別講演会「応用物理学との接点を求めて」

現地実行委員長の秋本先生を中心に企画された講演会で、一般の方々にも無料で公開されました。筑波研究学園都市の300に及ぶ研究機関の研究成果の一端が応用物理との関係から紹介され、ブラックホールや植物など、天体、農業、生体情報処理、環境など、これから応用物理学がカバーすると考えられる分野の新しい成果が紹介されました。約120名の聴衆の中に、高校生が数多く聴講していた点が特筆されます。

②特別企画シンポジウム「光科学の未来を拓く—Frontier and New Prospects in Optical Science—」

ノーベル物理学賞受賞者のHall博士の光周波数コムの研究にかかわる興味深い考えやメッセージを含む講演を皮切りに「さきがけ」の研究領域の若手研究者による講演が2日間英語で行われ、160名の会場はほぼ満員となりました。このシンポジウムはJSTとの共同企画で実施されました。

③日韓合同シンポジウム「Japan-Korea Session: Progress in the Spin-RAM, Domain wall new devices, and Spintronics」

この企画は韓国物理学会と応用物理学会が学术交流を目的として日本と韓国で交互に開催しているシンポジウムで、今回が2回目で日本での開催となりました。講演は英語で行われ、会場はほぼ満席となり約180名の聴衆で埋まりました。

④人材育成・男女共同参画委員会他共同企画特別シンポジウム「イノベーション研究推進のための人材育成」

⑤人材育成・男女共同参画委員会特別企画「博士のキャリア相談会」

この企画は、企業、大学、独立行政法人研究所など12機関が参加して実施されました。今回も満員の盛況で、主として博士課程在籍または修了の約200名の求職者で相談コーナーが満席となり列をなすほどでした。この企画は今回が2回目の実施で今後も引き続き検討される予定です。

⑥応用物理学会スクール「会社に入る前に身に付けてほしいこと—企業における技術者像—」

⑦応用物理学会スクール「液相成長に学ぶ結晶育成技術の最前線」

⑧応用物理学会スクール「安価、簡単、便利～大気圧プラズマの基礎と応用～」

*京大院工

これらのスクールではこれまでに増して聴衆が多く、特に大気圧プラズマのスクールでは、事前予約が定員に達した後も問い合わせが多かったという興味深いスクールで、約180人の参加者がありました。地球環境保全の観点から最も関心が高いテーマで開催され、多くの参加者を集めました。

⑨ JJAP/APEX フレンドシップミーティング

約140人の聴講者があり、マーク・ピーターセン教授のユーモアのある講演に聴衆は魅了されていたように思えました。

その他、ラボツアーという企画で、産業技術総合研究所と物質・材料研究機構への見学会が企画されました。会期直前の予約および現地会場申込みでしたが、それぞれ予定の20名弱の参加者が集まり2日間実施されました。これらの研究機関を実際に見学することにより得ることが多かつ

たものと推察いたします。また、初めての筑波大学での講演会となり、参加者は多くの印象を抱いて帰られたのではないかと思います。

今回の応用物理学会は以前にも増して魅力あふれる企画が多く、参加者には多様な関心を寄せる機会を得ることができたものと考えております。このような魅力的な企画を立案された多くの委員の皆様到最后に感謝の意を表します。

2回のアンケートを実施し、会員のご意見をもとに、今後、DVD-ROM化を具体的に検討します。電子化することにより予稿集の利便性をいっそう向上させるとともに、会員に負担にならないような5,000円から8,000円の価格帯を検討しております。早ければ来年東海大学で開催される春季講演会から予稿集がDVDとなります。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。